

第73回福証IRフェア 会社説明資料

株式会社九州リースサービス

(東証二部・福証 証券コード8596)

平成29年2月16日

ソラリア西鉄ホテル

目次

1. 会社概要
2. 業界概況
3. 当社の事業内容と特色
4. 業績推移および中期経営計画
5. 株主還元方針

1. 会社概要

会社概要

会社名	株式会社九州リースサービス
本社所在地	福岡市博多区博多駅前4-3-18
代表者名	代表取締役社長 古賀 恭介
設立	1974年11月1日
事業内容	リース、不動産、ファイナンス 他
株式上場市場	東証市場第二部・福証(証券コード8596)
資本金	29億3,330万円
売上高	194億円(H28/3月末現在)
従業員数	150名(H28/12月末現在)

上場市場変更

◆平成28年11月25日 東京証券取引所市場第二部へ上場



- 営業基盤の拡充、資金調達能力の増大、財務体質の強化
- 社会的信用度・知名度の向上、社員のモラルUP

沿革

- 1974年 新しい設備調達手段として発展していたリース産業に着目し、ユニオンリース株式会社を設立(資本金3千万円)
- 1980年 社名を株式会社九州リースサービスに変更
- 1982年 営業貸付業務を開始
- 1984年 不動産業務を開始
- 1988年 福岡証券取引所に株式上場
- 1999年 第三者割当増資を実施(20億円)(資本金29億3千万円)
- 2014年 設立40周年を迎える
- 2016年 **東京証券取引所市場第二部上場**

企業理念

“共存共栄”

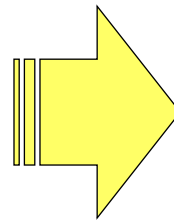
企業経営に必要な付加価値の高いサービスを提供していくことにより
お客様と共に発展・成長することを目指します。

“地域貢献”

地域に根ざした総合金融サービス企業として、地域経済の発展に貢献
します。

店舗網

- ・福岡本社
- ・北九州支店
- ・久留米支店
- ・熊本支店
- ・大分支店
- ・長崎支店



九州・山口全域へ

東京支店新規開設予定

2. 業界概況

リースって？



リース会社？

何をする会社？

『建機』？

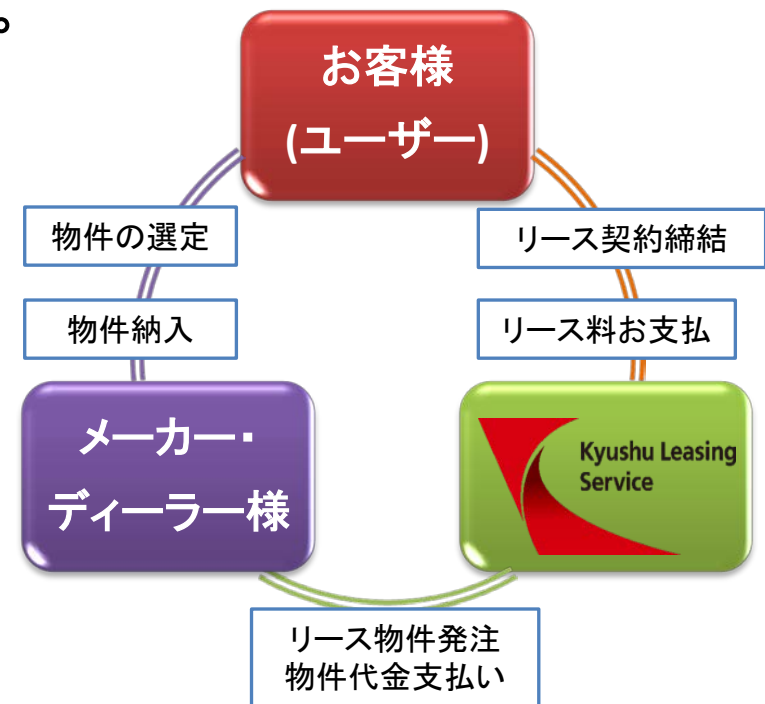
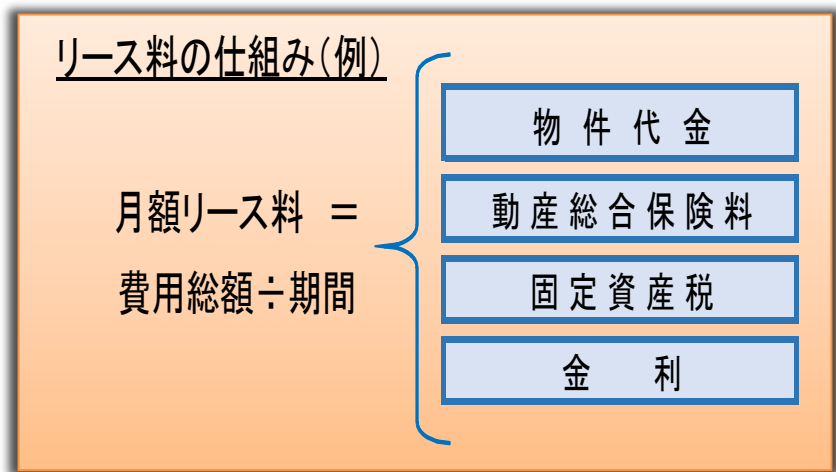
『コピー機』？

『カラオケ』？

『おしぼり』？

リースのしくみ

◆お客様が選定した機械や設備などを、お客様に代わってリース会社が購入し、比較的長期にわたって、毎月定額のリース料でお客さまへお貸しする(=リースする)取引です。



リースとレンタルの違い

	リース	レンタル
お客様	特定(主に法人)	不特定(主に個人)
物件種類	お客様が自由に選択	所有物件内より選択
対象物件	都度購入	常時保有
契約期間	中長期(通常2年以上)	短期(時間、日単位)
所有権	リース会社	レンタル会社
契約終了後	返却または再リース	返却

- 基本的には**個人ではなく法人のお客様**を対象としています。
- 契約期間終了後は**再リース**という形で従前よりも安価な料金で物件使用を継続することができます。

➤ 総合リース業・・・国内91社、市場規模5兆円(国内設備投資の約7%)

リースの魅力

・ユーザー（お客様）のメリット

- ① 資金調達手段の選択肢が広がる
- ② 初期投資は不要で毎月定額支払い
- ③ 保険付保や税金支払といった事務のアウトソーシング

・メーカー、ディーラー様のメリット

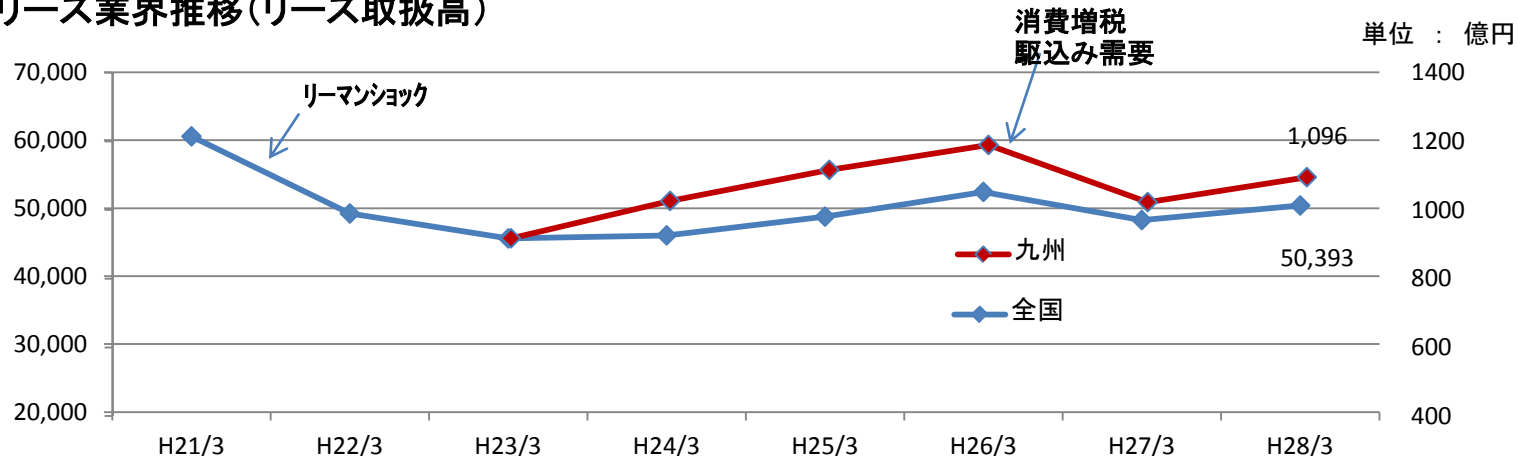
- ① 新たな販売手段の獲得
- ② 分割払いでなく一括でリース会社が購入してくれる
- ③ 代金回収等の事務処理のアウトソーシング

主なリース取扱品目

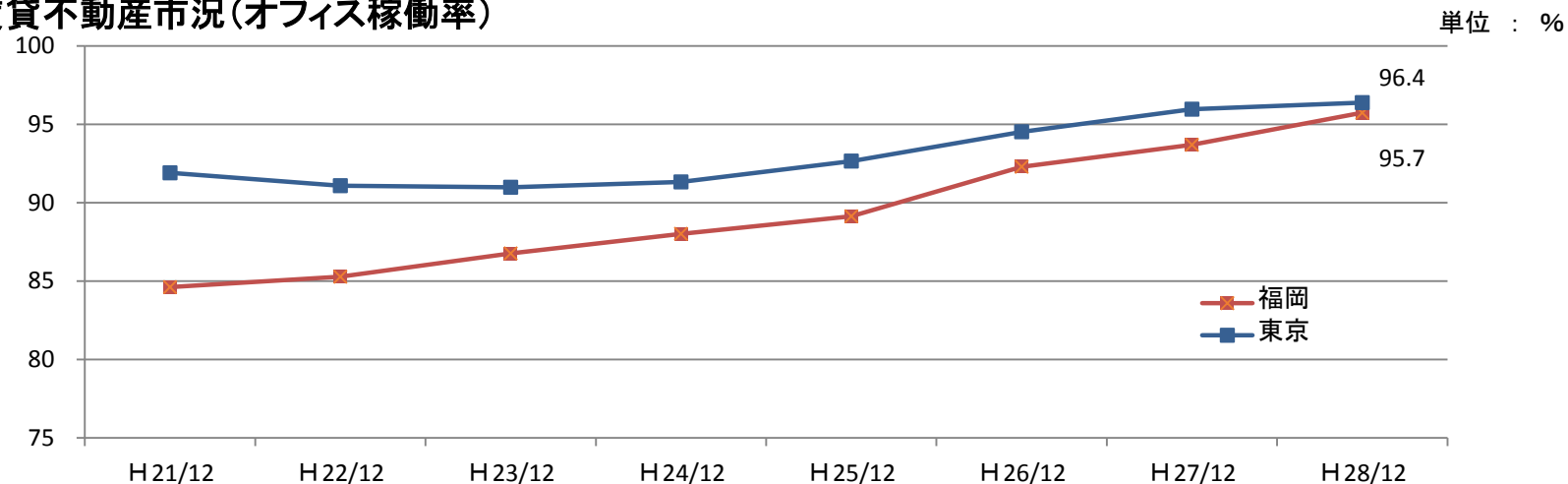
	主なリース物件
情報通信機器	サーバー、パソコン、ソフトウェア、電話交換機、通信機器
事務用機器	ファクシミリ、複合コピー機
工作機械	旋盤、マシニングセンタ、射出成形機、鍛圧機械
建設機械	油圧ショベル、クレーン、ブルドーザ
輸送用機器	フォークリフト、バス、トラック、航空機、船舶
医療機器	MRI、CTスキャナ、超音波診断装置
商業用設備	POSレジ、空調設備、厨房設備、自動販売機、什器、遊戯台

業界・市場の動向

➤ リース業界推移(リース取扱高)



➤ 賃貸不動産市況(オフィス稼働率)



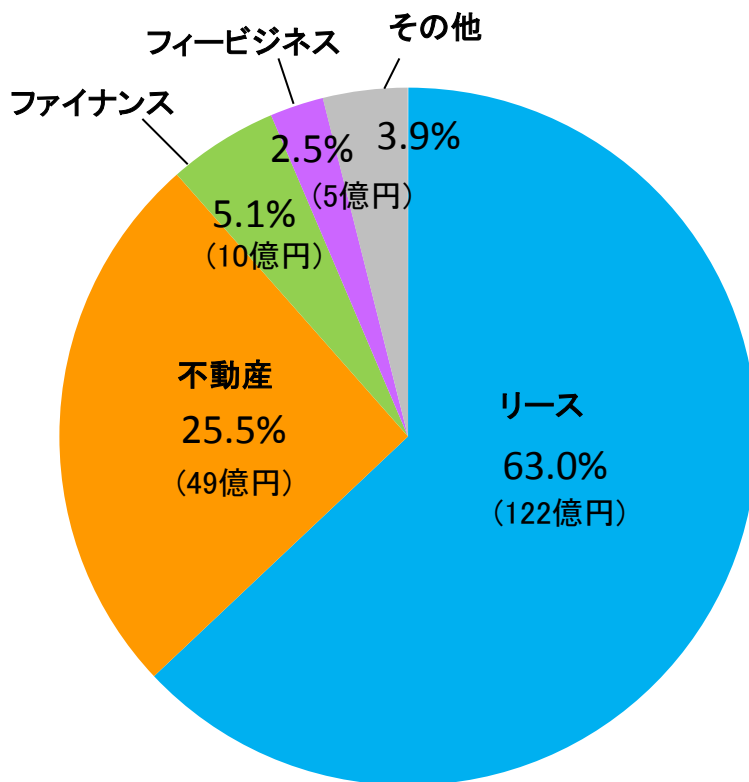
3. 当社の事業内容と特色

- ◇リース事業
- ◇不動産事業
- ◇ファイナンス事業
- ◇フィービジネス事業

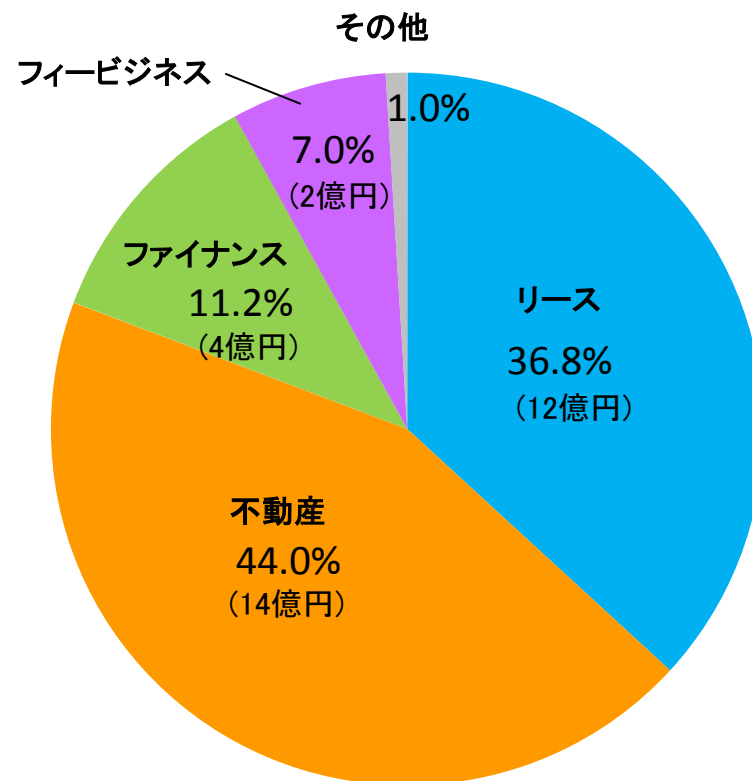
事業の内容 (2016/3期)

◆リースを中心とした、主要4事業のバランス経営

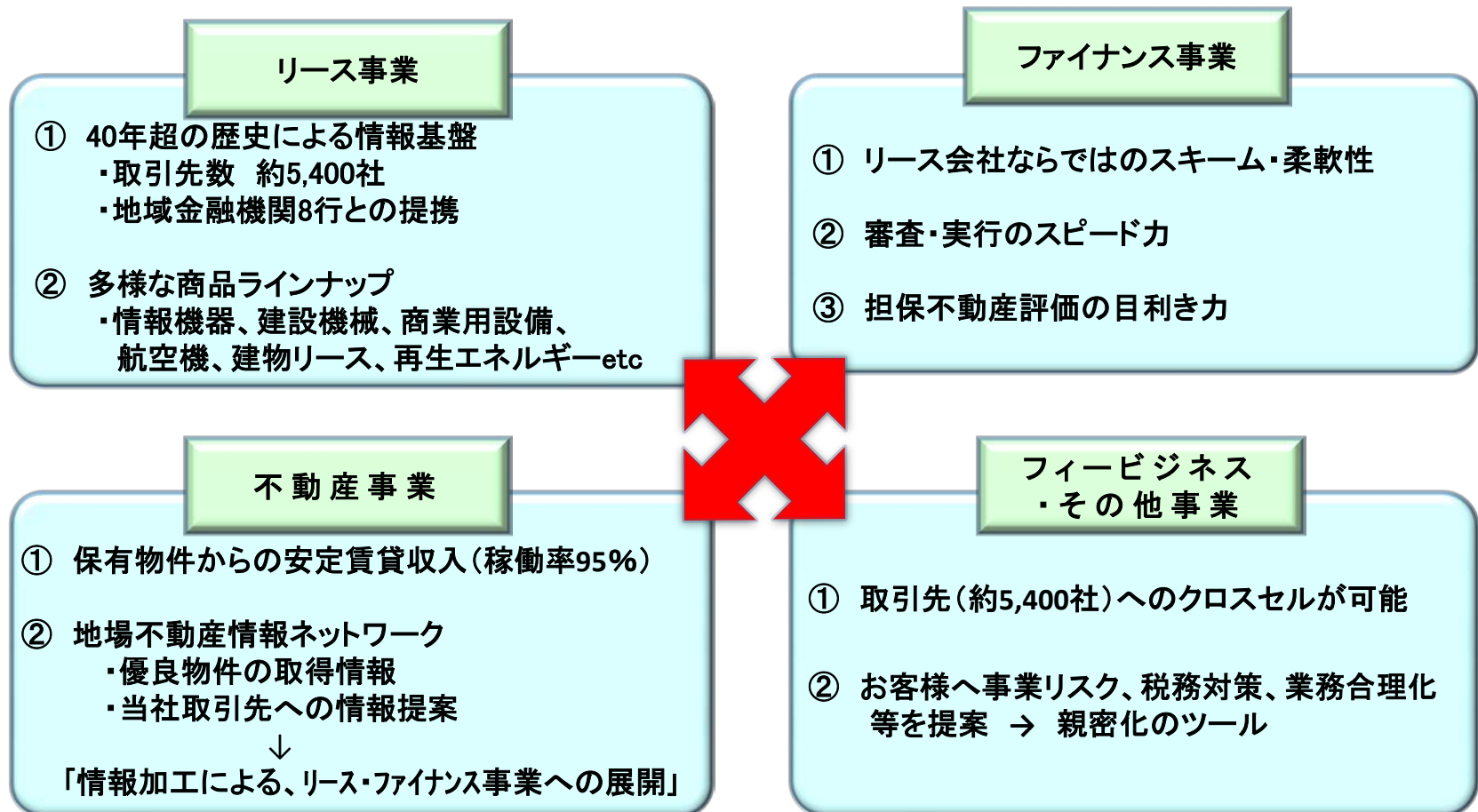
➤ 売上高 (194億円)



➤ 営業利益 (32億円)

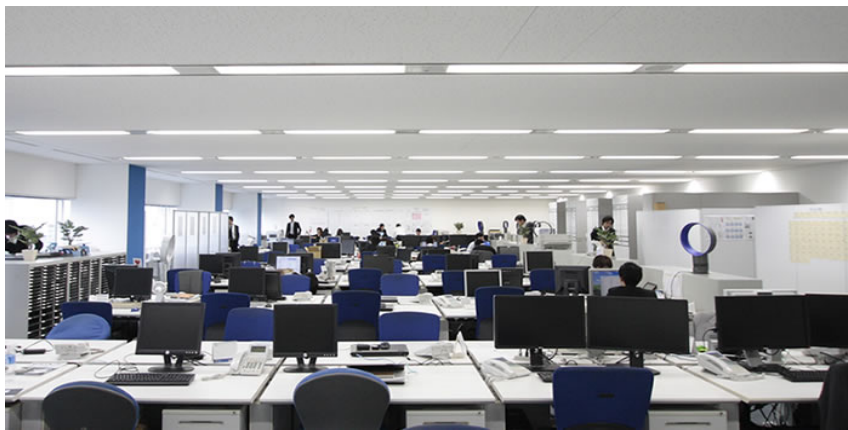


ビジネスモデル(強み)～地場情報力と各事業の融合



リース事業

①一般リース



←
オフィス機器



↑ 平面研削盤(工作機械)



↑ 油圧ショベル(建設機械)



←
医療用MRI

②航空機リース



	内容
契約先	easyJet Airline Co. ,Ltd.
契約額	41,828,300ドル (約49億8千万円)
対象機体	 AIRBUS A320-200

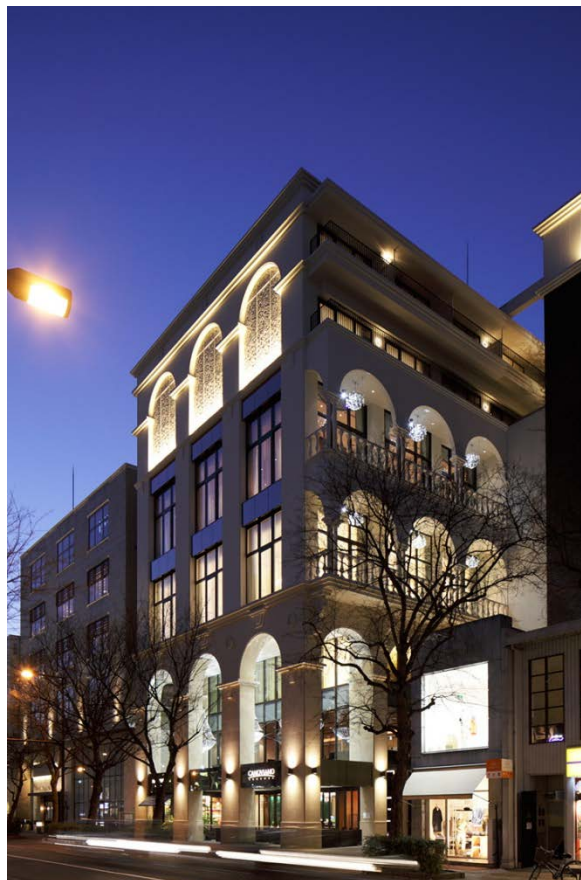
	内容
契約先	IC AirLease One Limited
契約額	28,400,000ドル (約33億3千万円)
対象機体	 BOEING B737-800

- ・航空機を丸ごと1機購入し、航空会社へリース
- ・LCCの拡大に伴い航空機リースの需要は近年ますます増加中

③建物リース

- 合計22施設38テナントを取組
- 長期安定資産として積極推進

複合商業施設 →
(熊本県宇土市)



↑ 結婚式場
(福岡市中央区大名)



←複合商業施設
(福岡市城南区片江)

④再生エネルギー



- メガソーラー発電所

2012年7月九州初のメガソーラー
共同事業、現在6カ所取組



- バイナリー発電所

熊本県小国町にて温泉の蒸気
を利用して発電するバイナリー
発電事業を取組

不動産事業



オフィスビル(福岡市)



ビジネスホテル
(鹿児島県)



立体駐車場(熊本県)

- 不動産賃貸を中心に不動産売買や仲介の事業を展開
- 商業施設や賃貸マンション等、九州内にて37物件を所有
- 収益の柱として推進しつつ、リースとの相乗効果を図る

ファイナンス事業



大型商業施設融資プロジェクト(大阪府吹田市)



物流施設出資案件(埼玉県)

- 法人向け融資やプロジェクトファイナンス、エクイティ出資などによりお客様の事業をサポート
- 総合金融サービスの一環としてリース事業・不動産事業と連携

フィービジネス事業

◆生命保険代理業務

- ・経営者、従業員の保障確保のほか、事業資金の確保、役員退職金の準備、節税対策、コスト削減など法人特有のニーズに対応



◆損害保険代理業務

- ・火災保険や自動車保険のみならず、業務災害や賠償責任など、多様化する企業のリスクを適切にコントロールするプランをご提案



◆車両管理事務合理化

- ・メンテナンスサポート、自動車税納付、保険事務手続きの代行など、車両に関する合理化・コスト削減をご提案



お客様ニーズに合った多様な提案により差別化を目指す

当社の特色

➤ リース会社の系列 (リース事業協会 正会員91社)

	全国	うち九州
銀行系	57社	9社
商社系	8社	1社
メーカー系	19社	0社
独立系	7社	1社
合計	91社	11社

当社ビジネスモデル

独立系ならではの「総合商品力」
 + 大手にない「地場情報力」

→ 当社(九州で唯一の独立系)

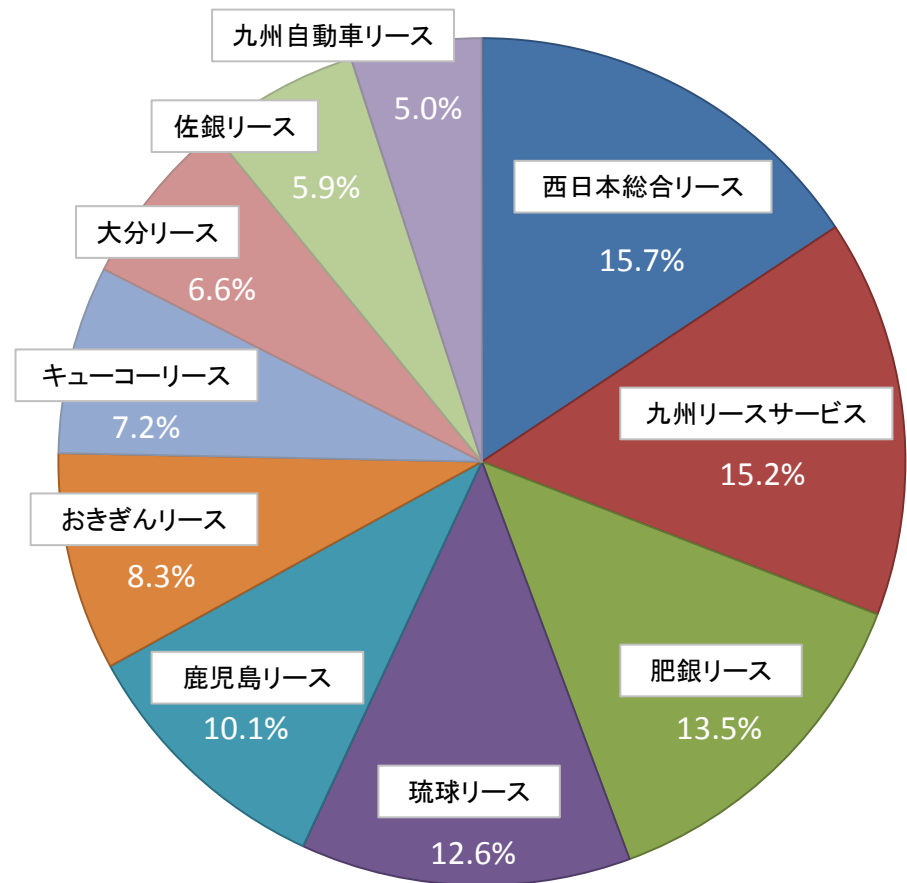
➤ 営業資産残高の順位 (リース事業協会 正会員91社のうち数値公表会社を集計)

	金額	全国	九州
リース債権、リース投資資産、 割賦債権 残高	498億3千1百万	35位/81社	1位/11社
賃貸資産 残高	414億7千7百万	9位/70社	1位/7社
営業貸付金 残高	197億6千3百万	20位/51社	1位/5社

(出典: 社団法人リース事業協会資料より)

九州内リース会社における売上高シェア（上位10社）

順位	会社名	売上高 (単位:百万円)	シェア
1	(株)西日本総合リース	20,032	15.7%
2	(株)九州リースサービス	19,395	15.2%
3	肥銀リース(株)	17,216	13.5%
4	(株)琉球リース	16,083	12.6%
5	鹿児島リース(株)	12,849	10.1%
6	(株)おきぎんリース	10,644	8.3%
7	(株)キューコーリース	9,162	7.2%
8	大分リース(株)	8,435	6.6%
9	佐銀リース(株)	7,542	5.9%
10	九州自動車リース(株)	6,385	5.0%
	計	127,743	100.0%



出所:帝国データバンク調査より

九州内リース会社の業績比較(上位10社)

九州・沖縄に本社を置くリース会社業績(2016/3期)

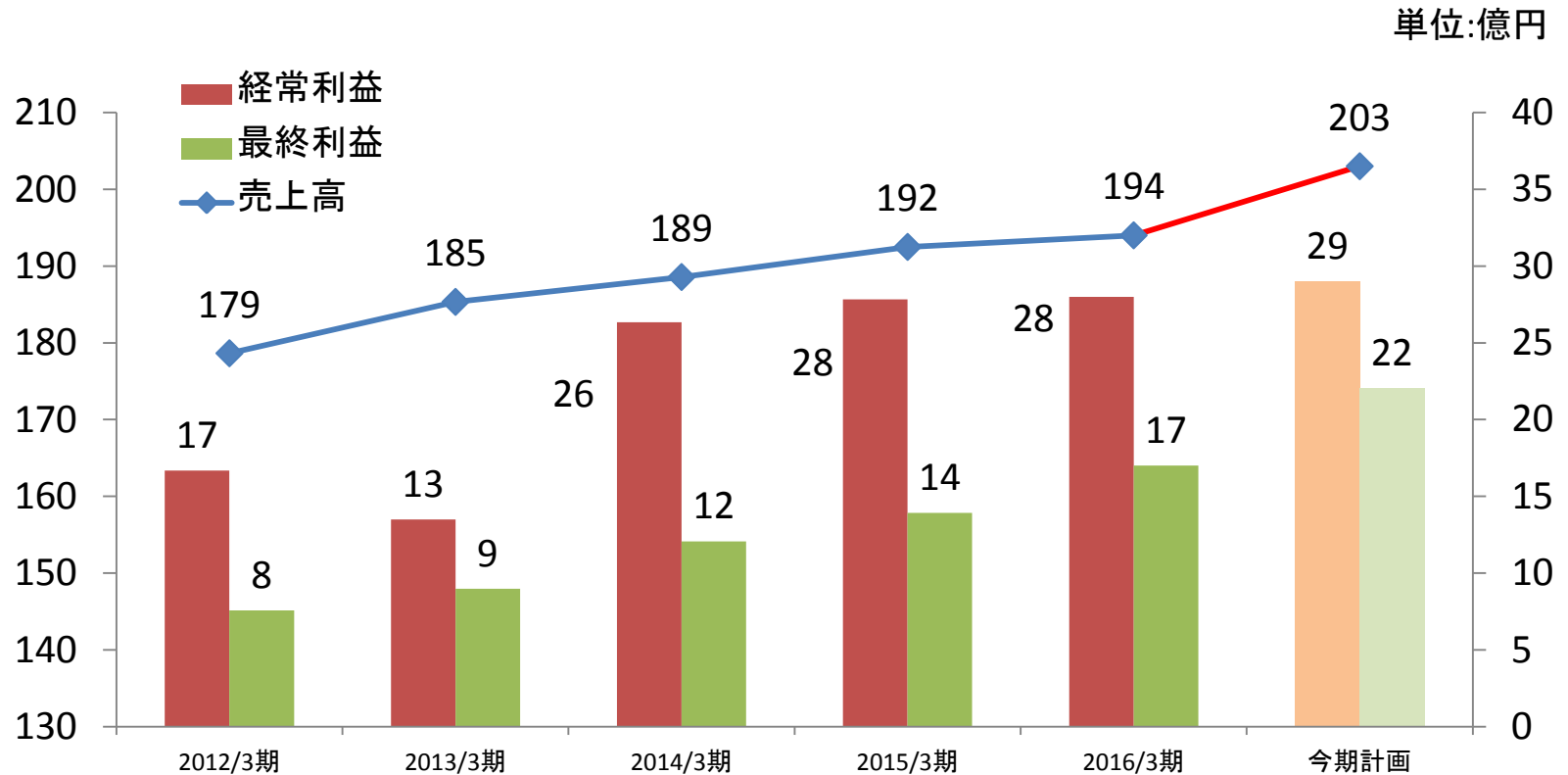
単位:百万円

順位	会社名	経常利益	経常利益率
1	(株)九州リースサービス	2,824	14.6%
2	肥銀リース(株)	980	5.7%
3	鹿児島リース(株)	729	5.7%
4	(株)琉球リース	722	4.5%
5	(株)キューコーリース	633	6.9%
6	大分リース(株)	616	7.1%
7	(株)西日本総合リース	532	2.7%
8	(株)おきぎんリース	449	4.4%
9	九州自動車リース(株)	439	6.9%
10	佐銀リース(株)	346	4.6%

出所:帝国データバンク調書より

4. 業績推移および中期経営計画

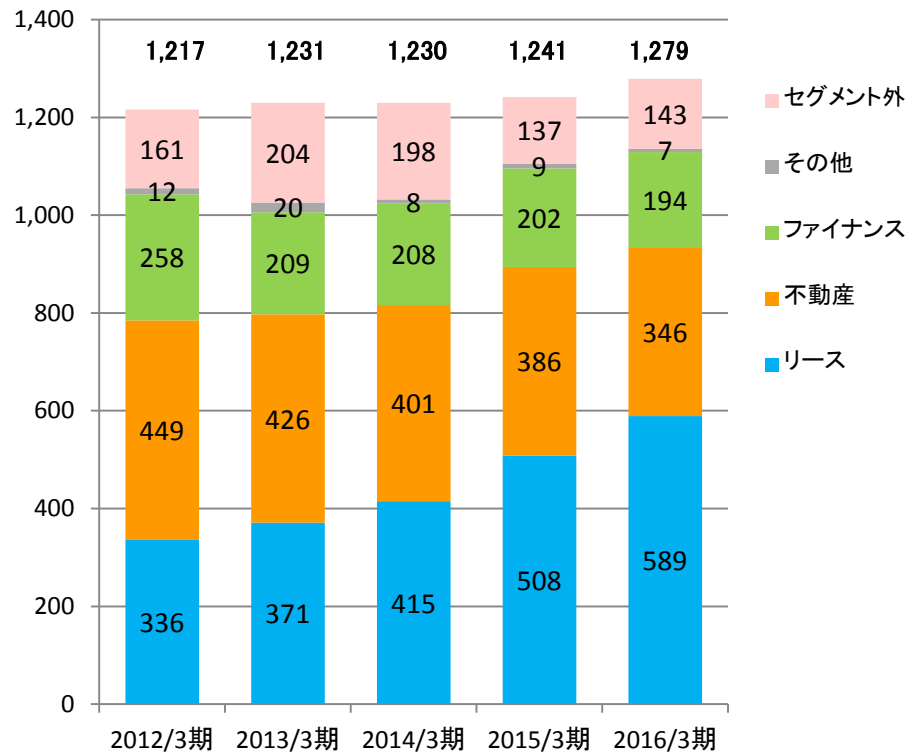
業績について(年間連結損益)



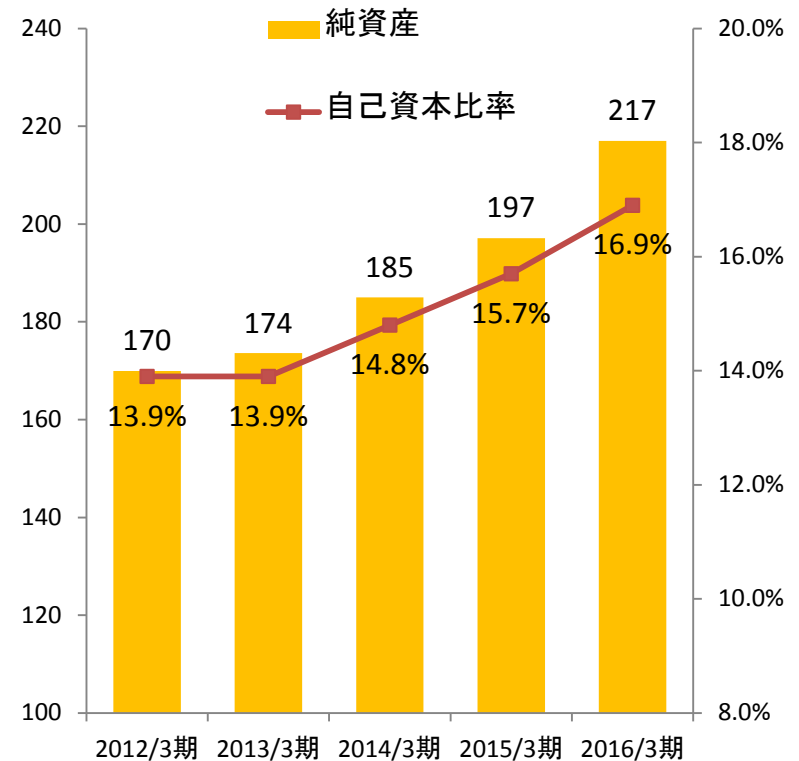
➤ 売上高5期連続増収、最終利益8期連続増益を見込んでおります。

資産額推移

単位：億円 総資産およびセグメント別資産

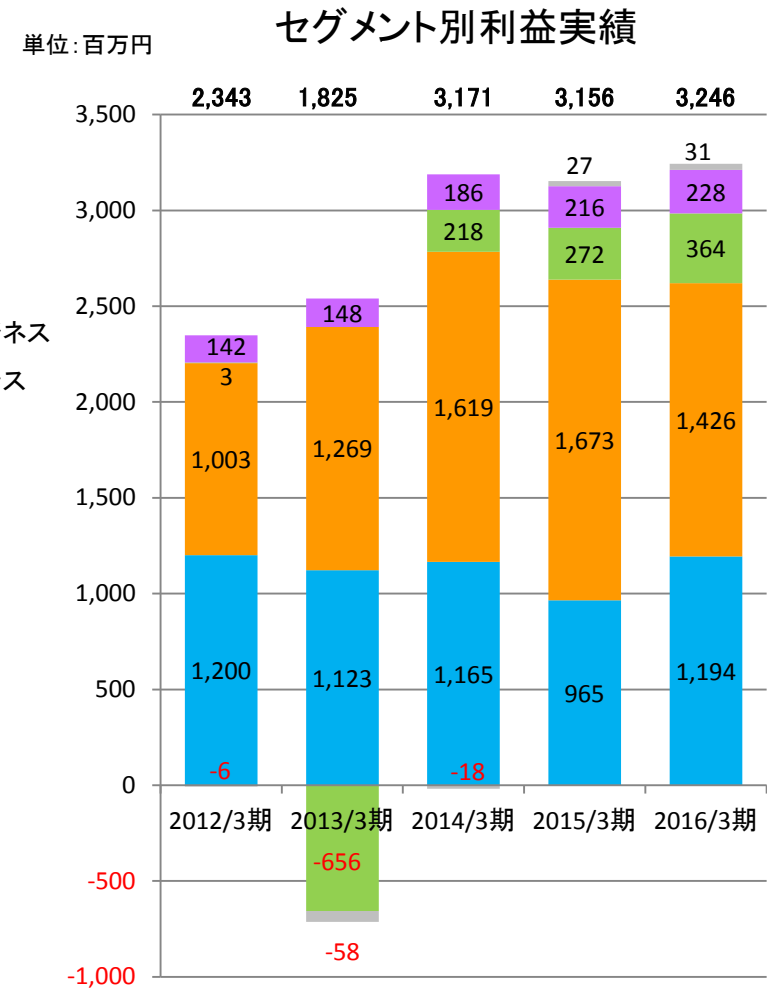
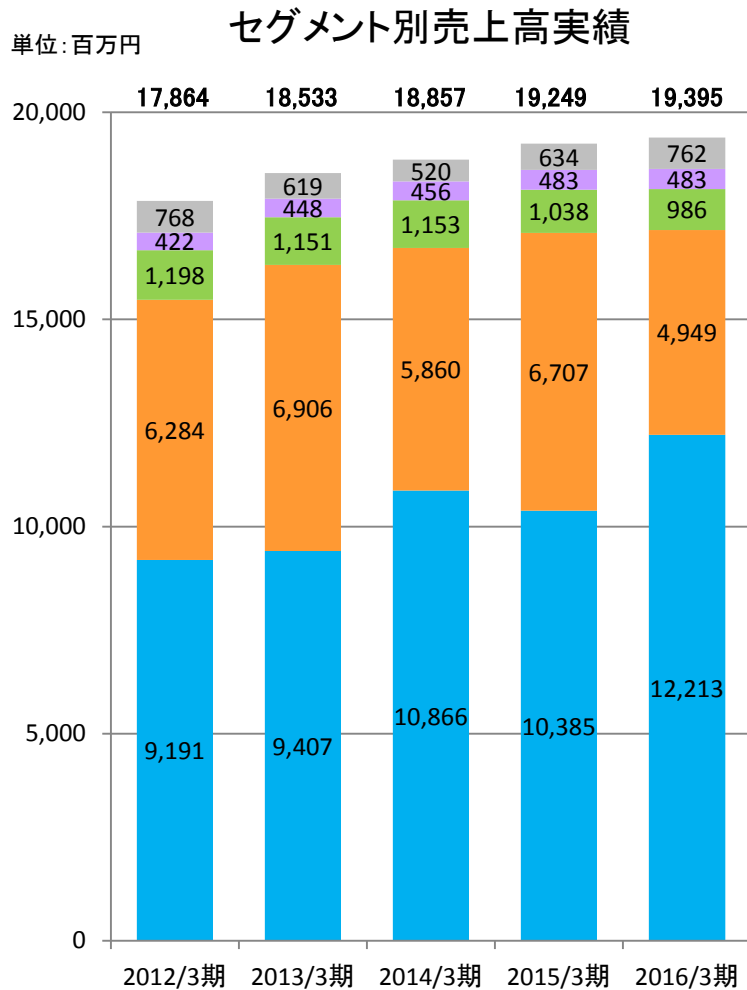


単位：億円



- リース資産を順調に積み上げており総資産は増加傾向
- 純資産および自己資本比率も増加しており安定した経営状況

セグメント別売上高・利益の実績推移



今期決算見込について

単位:百万円

	2016/3期 実績	2017/3期 計画	前期比	2017/3期第3 四半期実績	年度計画 進捗率
売上高	19,395	20,300	104.7%	15,408	75.90%
営業利益	2,905	3,000	103.3%	2,482	82.73%
経常利益	2,824	2,900	102.7%	2,492	85.93%
純利益	1,725	2,200	127.5%	2,005	91.14%
一株当たり当期 純利益(円)	76.81	97.89	127.4%	89.23	—
一株当たり 純資産(円)	965.26	—	—	1,024.35	—
配当(円)	10.00	12.00	120.0%	5.00 (中間配当)	—
ROE(%)	8.3	9.5	—	—	—

中期経営計画(2015/4月～2018/3月)

スローガン

九州ナンバーワン & オンリーワン
 共に未来を創造するスペシャリスト集団へ

営業基盤・体制の拡充
 (設立50周年へのスタート)

中長期的IT戦略の構築

東京証券市場への上場

リースの付加価値向上

不動産情報を核とした成長

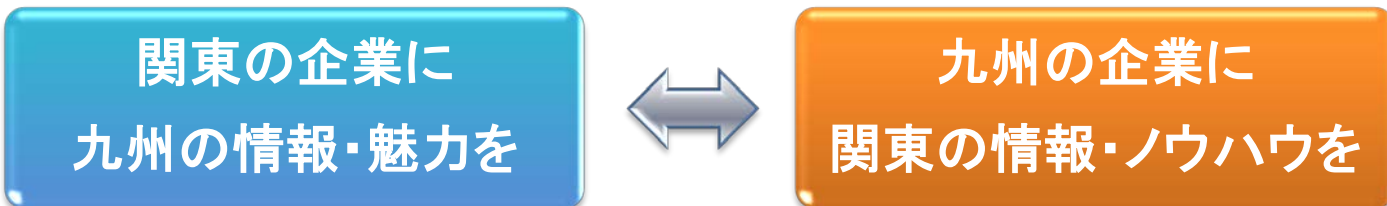
成長領域への参入強化

新規産業の構築

【経営目標】

	2015/3月期	⇒	2018/3月期
売上高	194億円	⇒	220億円
自己資本比率	16.9%	⇒	20.0%
株主還元強化	(中間配当の実施、株主優待の実施、配当性向アップ)		

東京支店開設について

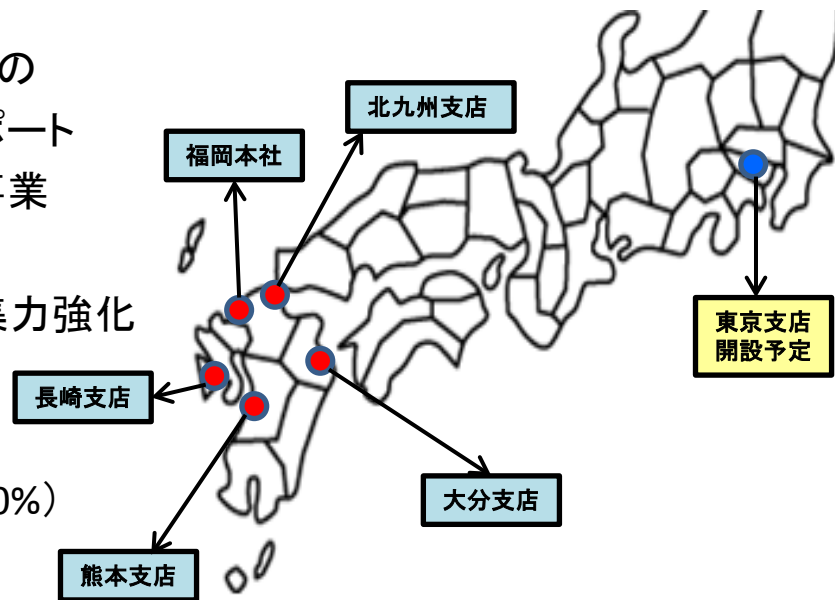


開設予定時期 平成29年5月予定

- 開設目的
- ① 東京進出企業と九州進出企業のネットワーク構築及び営業サポート
 - ② 東京エリアの取引先拡大・各事業積極展開
 - ③ 業務関連情報・ノウハウの収集力強化

既存取引状況

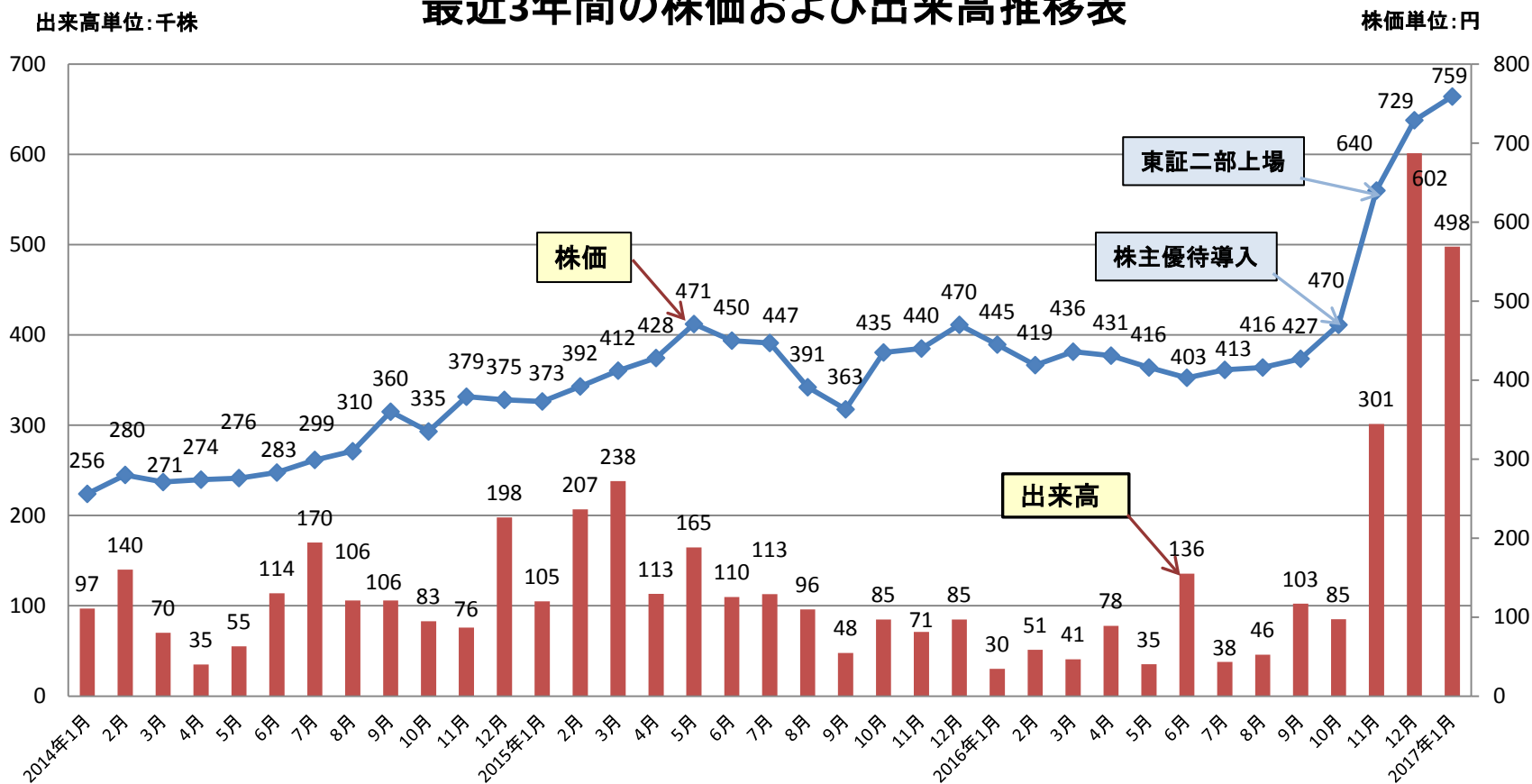
- ① 取引先数 40社
- ② 資産残高 111億円(約10%)



5. 株主還元方針

株価および出来高推移

最近3年間の株価および出来高推移表



配当の基本方針および目標

- 株主還元基本方針 ➤ 安定的・継続的な配当
- 配当性向目標の達成
 - 上記項目を達成するための財務体質の強化



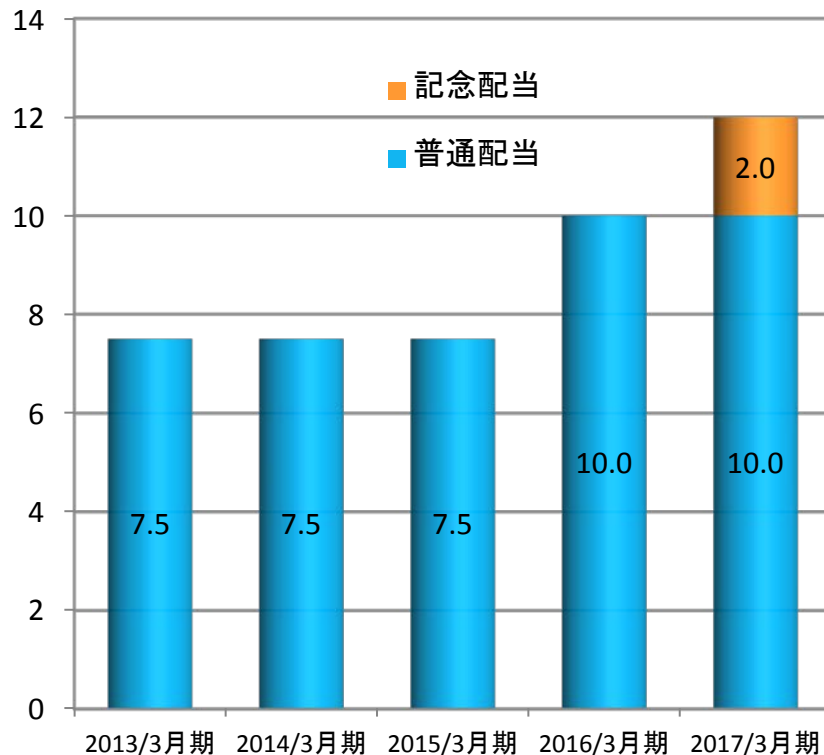
(2016/3月)

自己資本比率	16.9%	⇒	目標	20.0%
配当性向	13.0%	⇒	目標	20.0%
R O E	8.3%	⇒	目標	10.0%

配当実績推移および計画

- ・ 配当額については安定的かつ持続的な成長を基本として決定
- ・ 財務体質の強化を図り、経営成績に応じた配当の実施

※今期は記念配当2円を予定しています。



	配当金(円)
2013年3月期	7.5
2014年3月期	7.5
2015年3月期	7.5
2016年3月期	10.0
2017年3月期	12.0

株主優待

3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された

1単元(100株)以上保有の株主様に、

当社オリジナルQUOカード1,000円分を贈呈

※ 右のQUOカード写真は、贈呈を予定している図柄と異なります。



(注) 今後、株主優待の内容につきましては、継続して見直しを行って参ります。

【連絡先】 株式会社九州リースサービス 総合企画部
【所在地】 福岡市博多区博多駅前4丁目3番18号
【TEL】 092-431-2915

この資料は投資家の皆様への情報提供のみを目的としており、売買の勧誘を目的としたものではありません。
この資料における、将来計画等の記載につきましては、当社の現時点での判断に基づくものであるため、確約や保証を与えるものではありません。
また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上でご利用ください。
業界等に関する記載につきましても、信頼できる各種資料に基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
この資料は投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。